

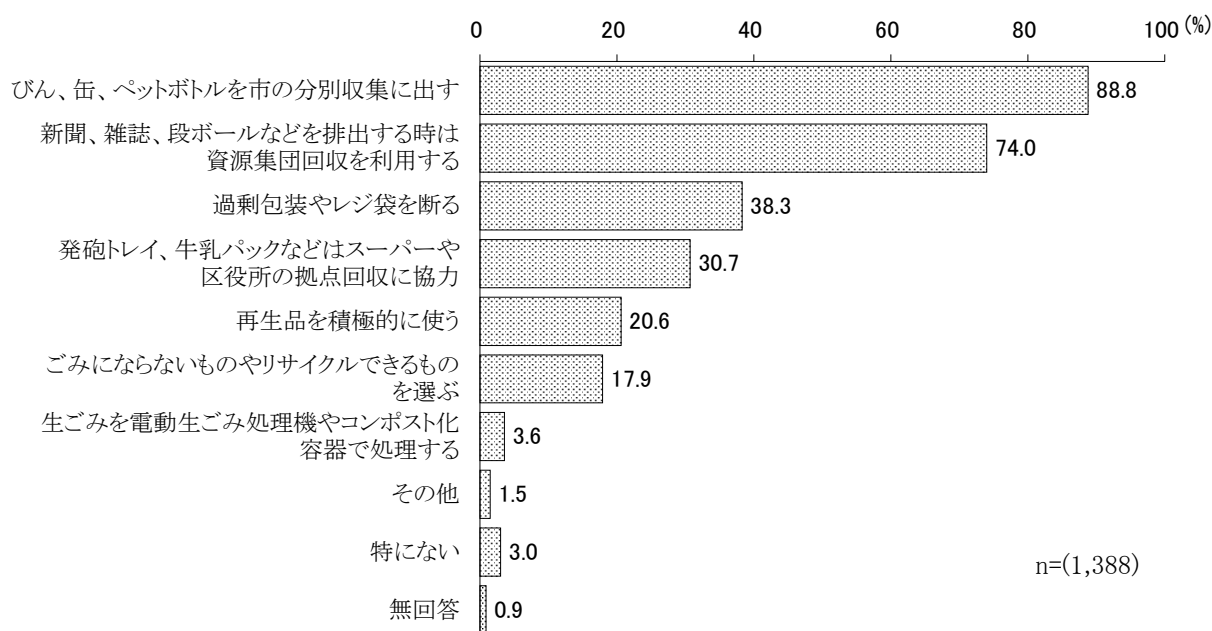
3 ごみに関する意識について

3-1 ごみの減量やリサイクルについて家庭で取り組んでいること

- ◎ 「びん、缶、ペットボトルを市の分別収集に出す」が88.8%、「新聞、雑誌、段ボールなどを排出する時は資源集団回収を利用する」が74.0%

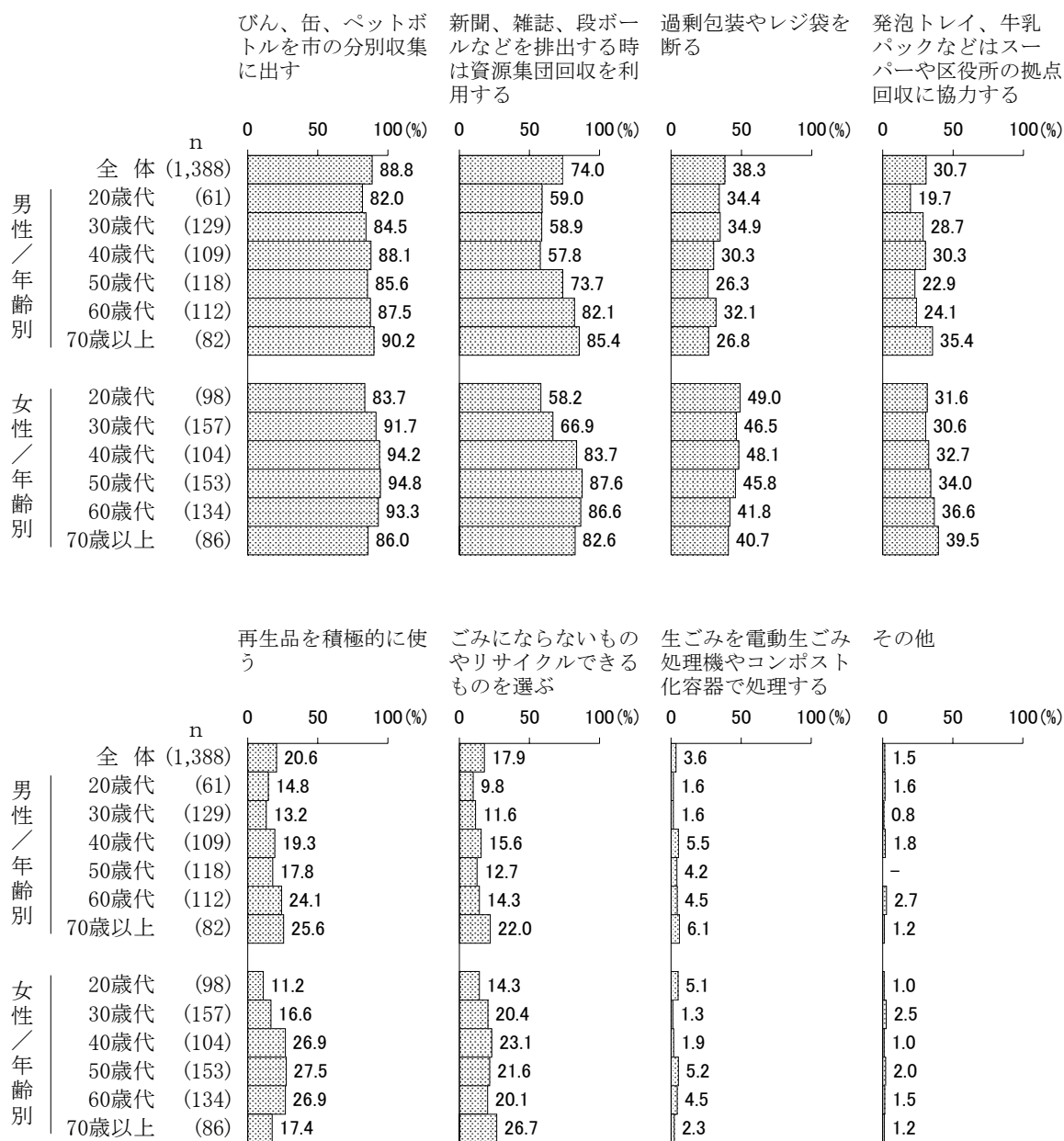
問 16 ごみ減量やリサイクルについては、市民の方々、一人ひとりが取り組んでいくことが必要です。この点について、現在、ご家庭で取り組んでいることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 3-1 ごみの減量やリサイクルについて家庭で取り組んでいること



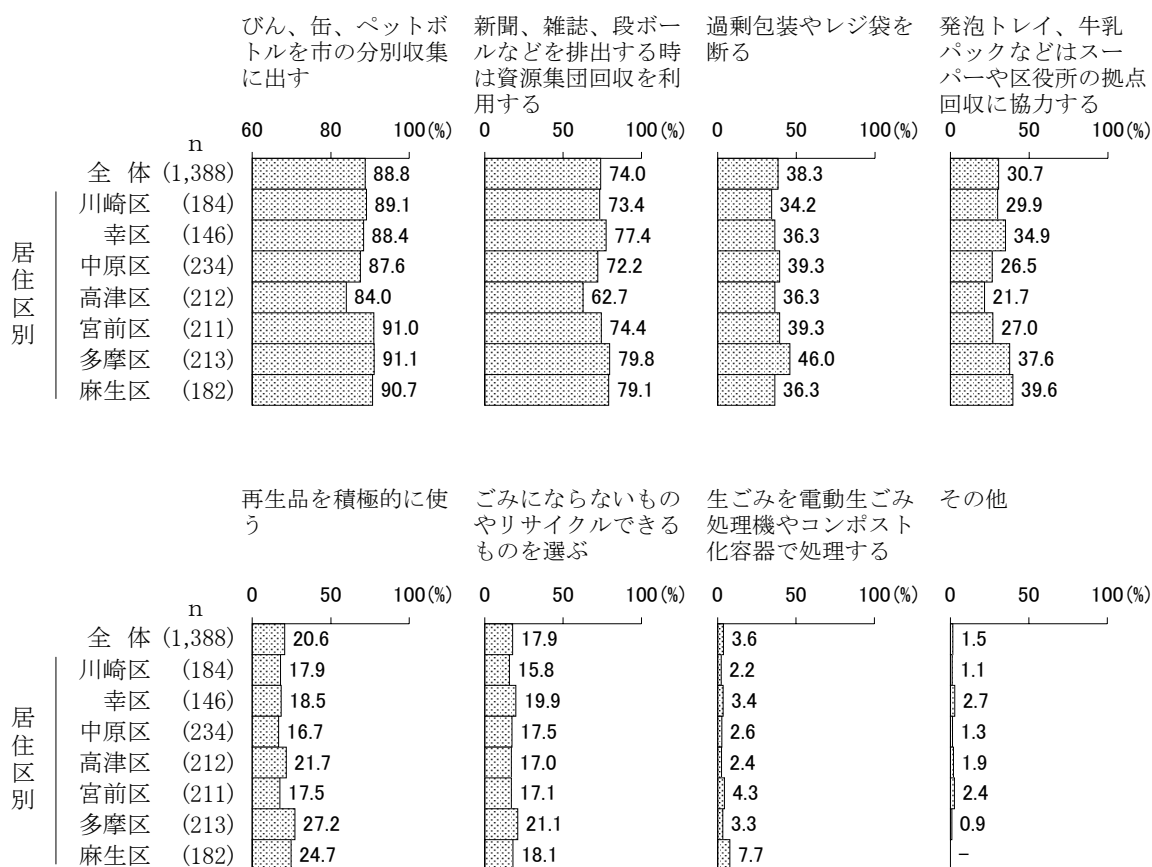
ごみの減量やリサイクルについて家庭で取り組んでいることでは、「びん、缶、ペットボトルを市の分別収集に出す」が88.8%と9割近く、「新聞、雑誌、段ボールなどを排出する時は資源集団回収を利用する」が74.0%でこの2項目が多くなっている。以下、「過剰包装やレジ袋を断る」(38.3%)、「発砲トレイ、牛乳パックなどはスーパーや区役所の拠点回収に協力する」(30.7%)、「再生品を積極的に使う」(20.6%)と続いている。(図表3-1)

図表3-2 ごみの減量やリサイクルについて家庭で取り組んでいること（性／年齢別）



性／年齢別では、「びん、缶、ペットボトルを市の分別収集に出す」はいずれの年齢でも8割から9割台と多くなっている。「新聞、雑誌、段ボールなどを排出する時は資源集団回収を利用する」は男性では60歳以上、女性では40歳以上で8割台と多くなっている。「過剰包装やレジ袋を断る」は全体的に女性の割合が多く、20歳代で半数近くになっており、いずれの年齢でも4割台となっている。（図表3-2）

図表3-3 ごみの減量やリサイクルについて家庭で取り組んでいること（居住区別）



居住区別では、「びん、缶、ペットボトルを市の分別収集に出す」はいずれの区でも8割から9割台と多くなっている。また、多摩区と麻生区では、「発泡トレイ、牛乳パックなどはスーパーや区役所の拠点回収に協力する」や「再生品を積極的に使う」が他の区より比較的多くあげられており、この2つの区は全体的な評価としてみても、ごみの減量やリサイクルについての意識が高い結果となっている。（図表3-3）

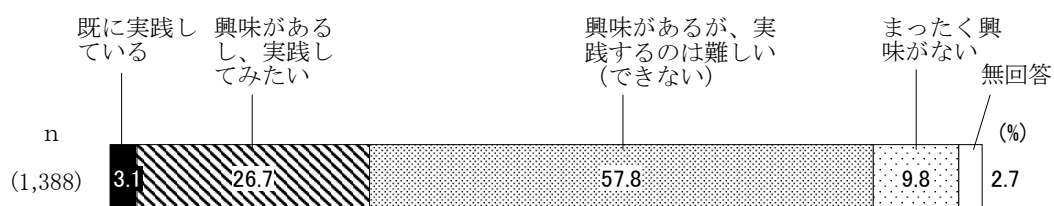
3-2 生ごみのリサイクルを実践することへの興味

- ◎ 「興味があるし、実践してみたい」は26.7%、「興味があるが、実践するのは難しい(できない)」は57.8%

問 17 生ごみはコンポスト化容器や電動生ごみ処理機を使って処理すると堆肥や肥料として、活用することができます。

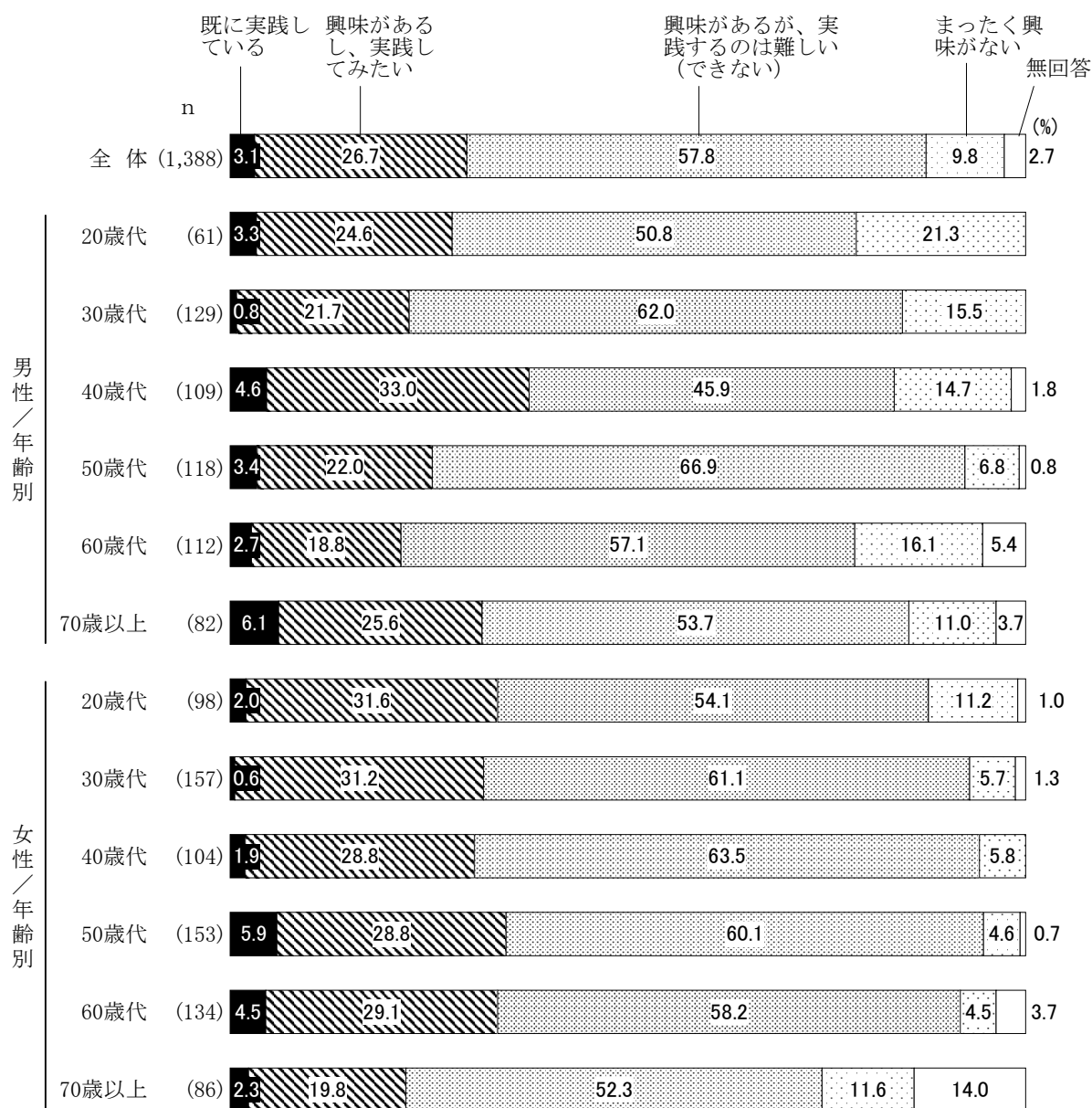
あなたは、生ごみのリサイクルを実践することに興味がありますか。(○は1つ)

図表3-4 生ごみのリサイクルを実践することへの興味



生ごみのリサイクルを実践することへの興味では、「既に実践している」は3.1%と少数にとどまっている。また、「興味があるし、実践してみたい」は26.7%、「興味があるが、実践するのは難しい(できない)」は57.8%となっている。(図表3-4)

図表3-5 生ごみのリサイクルを实践することへの興味（性／年齢別）



性／年齢別では、「既に実践している」は男性の70歳以上で6.1%、女性の50歳代で5.9%となっているが、いずれの年齢でも1割に満たない。「興味があるし、実践してみたい」は男性の40歳代、女性の20歳代と30歳代で3割台、女性の40歳代から60歳代で3割近くとなっている。「興味があるが、実践するのは難しい（できない）」は男性の30歳代と50歳代、女性の30歳代から50歳代で6割台と多くなっている。「まったく興味がない」は男性の20歳代で2割を超えて多くなっており、この選択肢では男性の割合が多くなっている。（図表3-5）

3-3 生ごみ処理機を購入してもよい金額

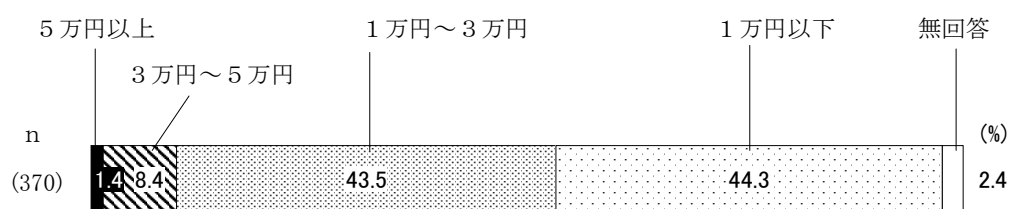
◎ 「1万円以下」が44.3%、「1万円～3万円」が43.5%

(問17で(生ごみのリサイクルを実践すること)に「興味があるし、実践してみたい」と答えた方にうかがいます。)

問17-(1) 現在、川崎市では生ごみ処理機※(主に電動式)の購入に際し、1万円を限度額として購入金額の半額を助成しています。

あなたが、実際に生ごみリサイクルに取り組むために、生ごみ処理機を購入してもよい金額(助成金を含まず)はどの程度ですか。(○は1つ)

図表3-6 生ごみ処理機を購入してもよい金額



※ 電動生ごみ処理機の通常販売価格：4万円～7万円程度

生ごみのリサイクルに興味があるし、実践してみたい人の、生ごみ処理機を購入してもよいと思う金額は、「1万円以下」が44.3%、「1万円～3万円」が43.5%でこの価格帯が二分している。(図表3-6)

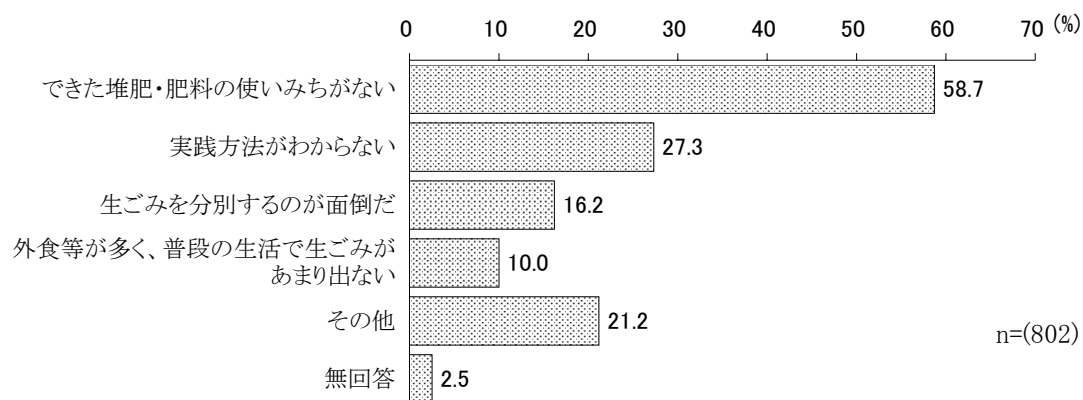
3-4 生ごみのリサイクルを実践するのが難しい理由

◎ 「できた堆肥・肥料の使いみちがない」が58.7%

(問17で(生ごみのリサイクルを実践することに)「興味があるが、実践するのは難しい(できない)」と答えた方にうかがいます。)

問17-(2) 実践するのが難しい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-7 生ごみのリサイクルを実践するのが難しい理由



生ごみのリサイクルを実践するのが難しいと答えた人の理由では、「できた堆肥・肥料の使いみちがない」が58.7%で最も多くなっている。以下、「実践方法がわからない」(27.3%)、「生ごみを分別するのが面倒だ」(16.2%)、「外食等が多く、普段の生活で生ごみがあまり出ない」(10.0%)と続いている。(図表3-7)

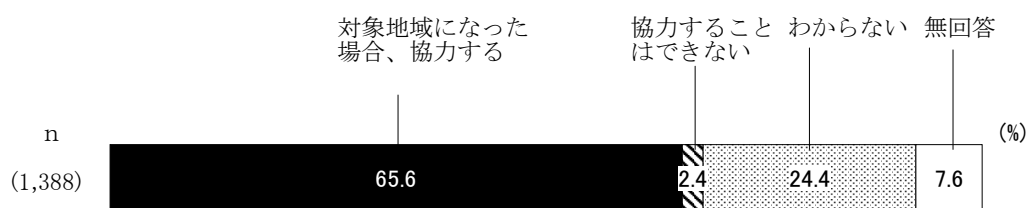
3-5 生ごみリサイクルモデル事業への協力意向

◎ 「対象地域になった場合、協力する」が 65.6%

問 18 川崎市では、平成 16 年 2 月から生ごみリサイクルモデル事業を実施しています。このモデル事業では、集合住宅へ処理機を設置し、お住まいの方が生ごみを処理機に投入し、できた堆肥を畑などに活用するといった取組みも行っています。

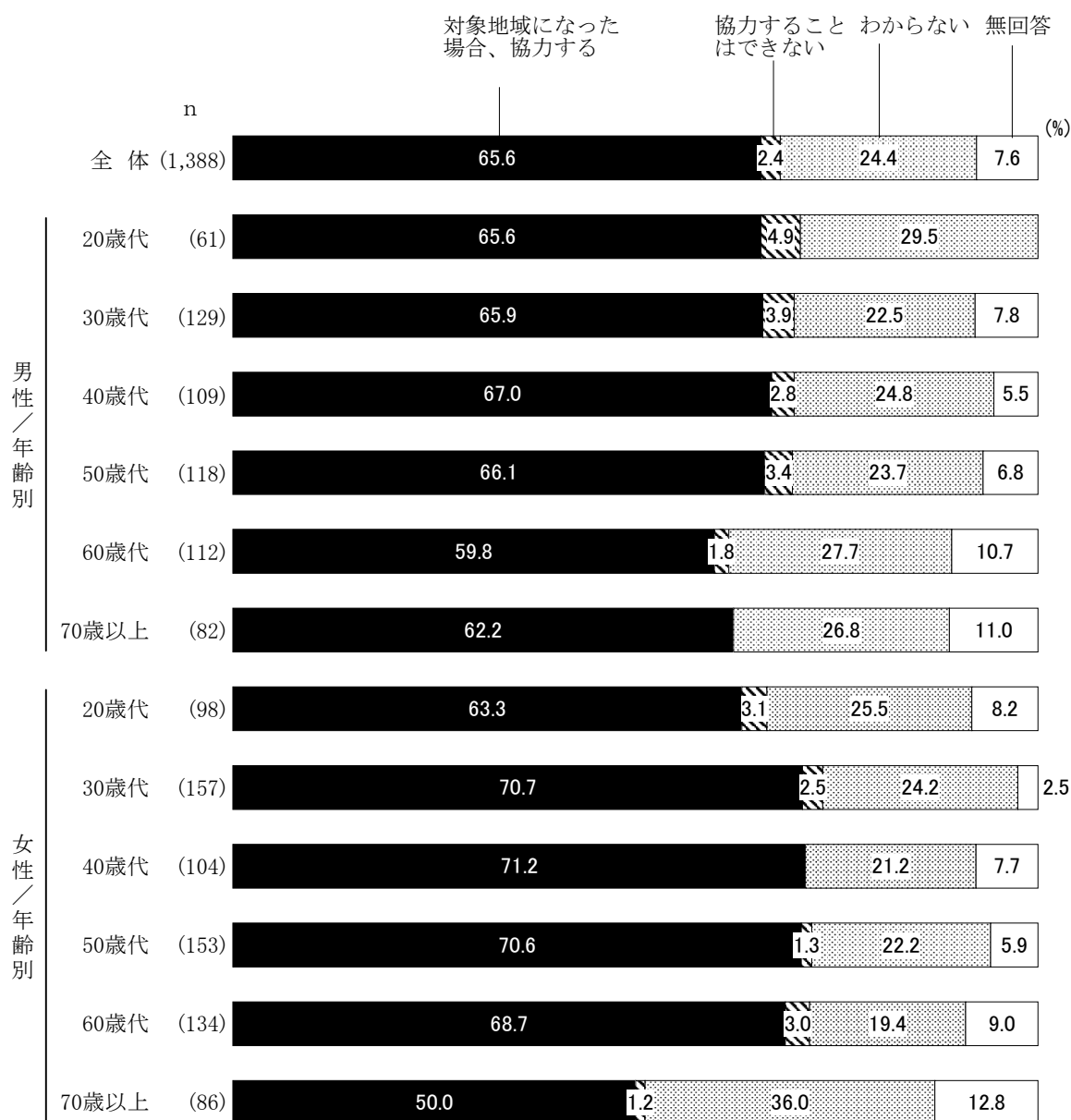
あなたのお住まいの集合住宅や地域でこのような取組みを行った場合、その活動に協力しますか。(○は 1 つ)

図表 3-8 生ごみリサイクルモデル事業への協力意向



生ごみリサイクルモデル事業への協力では、「対象地域になった場合、協力する」が 65.6%と多数を占めており、「協力することはできない」(2.4%)は 1 割に満たない。ただし、「わからない」も 24.4%と多くなっている。(図表 3-8)

図表3-9 生ごみリサイクルモデル事業への協力意向（性／年齢別）



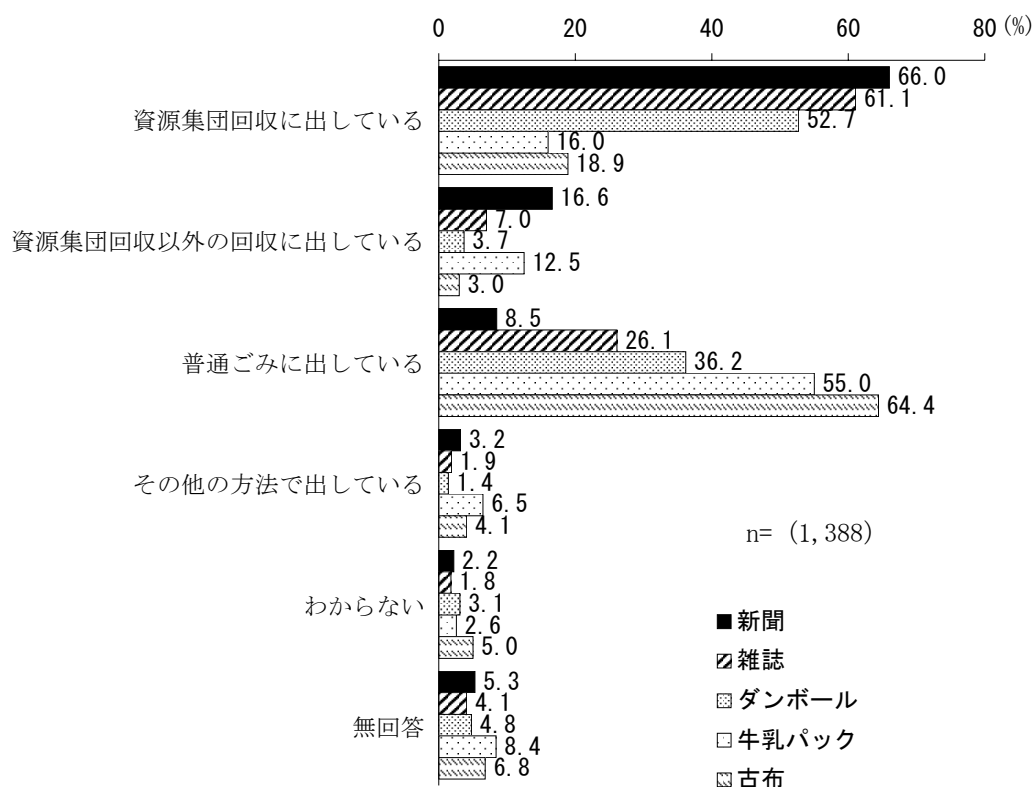
性／年齢別では、「対象地域になった場合、協力する」は女性の30歳代から50歳代で7割を超えている。それ以外の年齢では男女とも6割だが、男性の60歳代では6割弱、女性の70歳以上では半数とやや少なくなっている。「協力することはできない」はいずれの年齢でも少数にとどまっているが、「わからない」は概ね2割台で推移しており、女性の70歳以上では3割台半ばとやや多くなっている。(図表3-9)

3-6 資源集団回収の実施状況

◎ 「資源集団回収に出している」は、“新聞”が“雑誌”が6割

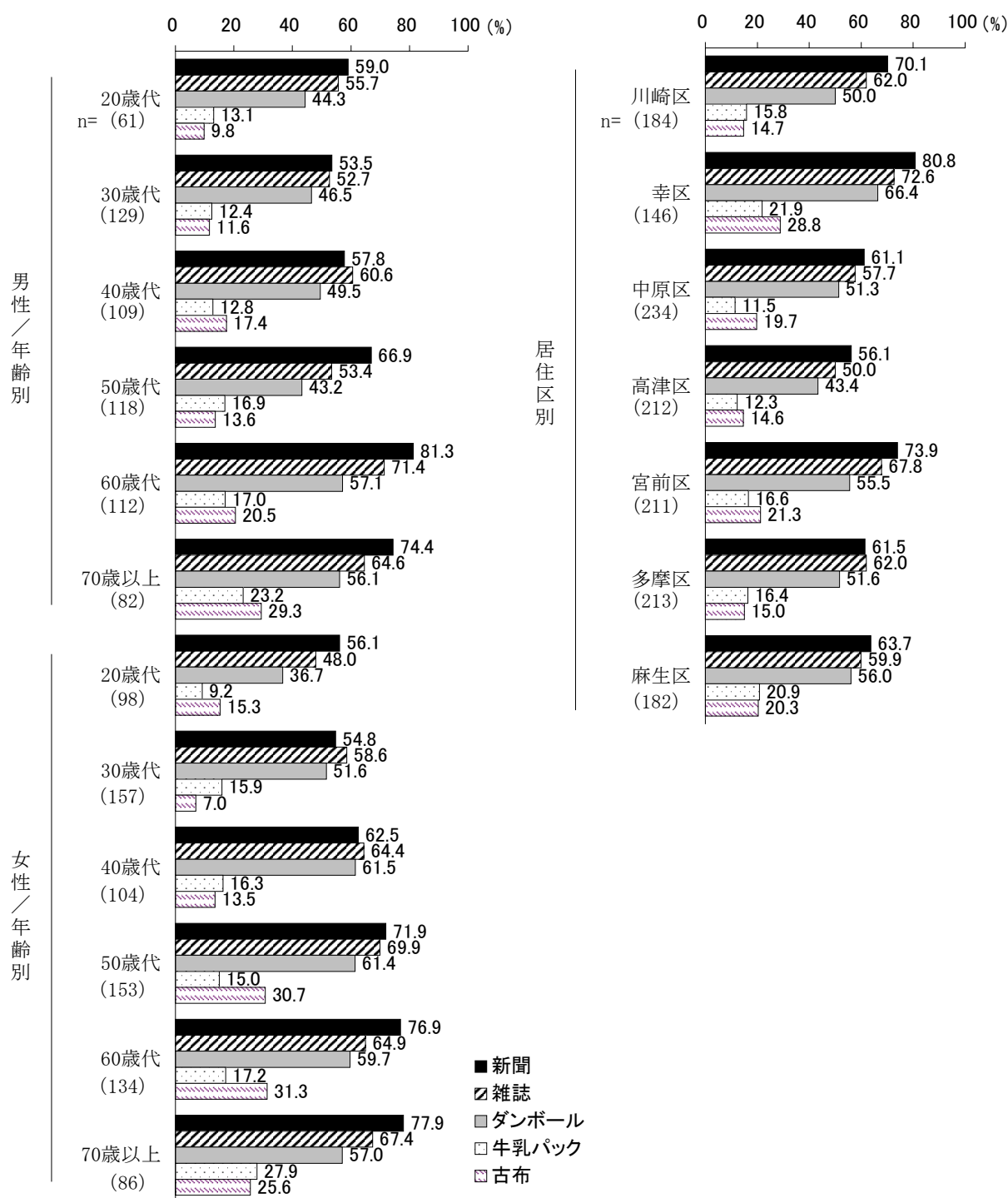
問19 新聞・雑誌・ダンボール・牛乳パック等の古紙類の出し方についてうかがいます。古紙類はどのように出していますか。(それぞれについてあてはまるものすべてに○)

図表3-10 資源集団回収の実施状況



資源集団回収の実施状況を聞いた。「資源集団回収に出している」では、“新聞”(66.0%)、“雑誌”(61.1%)、“ダンボール”(52.7%)が多くなっている。「普通ごみに出している」では、“古布”(64.4%)、“牛乳パック”(55.0%)が多くなっている。また、「資源集団回収以外の回収に出している」で多いのは、“新聞”(16.6%)、“牛乳パック”(12.5%)となっている。(図表3-10)

図表3-11 資源集団回収の実施状況（「資源集団回収に出している」、性／年齢別、居住区別）



「資源集団回収に出している」の性／年齢別では、“新聞”は男性の60歳代で8割を超え、70歳以上、女性の50歳以上でも7割台と多くなっている。“雑誌”は男性の60歳代で7割を超え、40歳代、70歳以上、女性の40歳以上で6割台と多くなっている。全体的には男性では60歳以上、女性では50歳以上の年齢で資源集団回収に出す人が多くなっている。

「資源集団回収に出している」の居住区別では、“新聞”は幸区で8割を超え、川崎区、宮前区でも7割と多くなっている。“雑誌”は幸区で7割を超え、川崎区、宮前区、多摩区でも6割台と多くなっている。全体的には幸区で資源集団回収に出す人が多くなっている。(図表3-11)

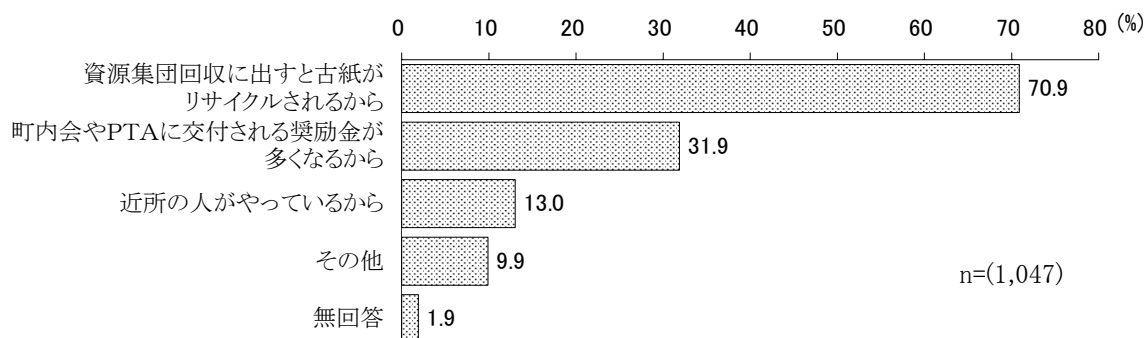
3-7 資源集団回収に出している理由

◎ 「資源集団回収に出すと古紙がリサイクルされるから」が70.9%

(問19の「新聞」、「雑誌」、「ダンボール」、「牛乳パック」、「古布」のうち、1つでも「資源集団回収に出している」と答えた方にうかがいます。)

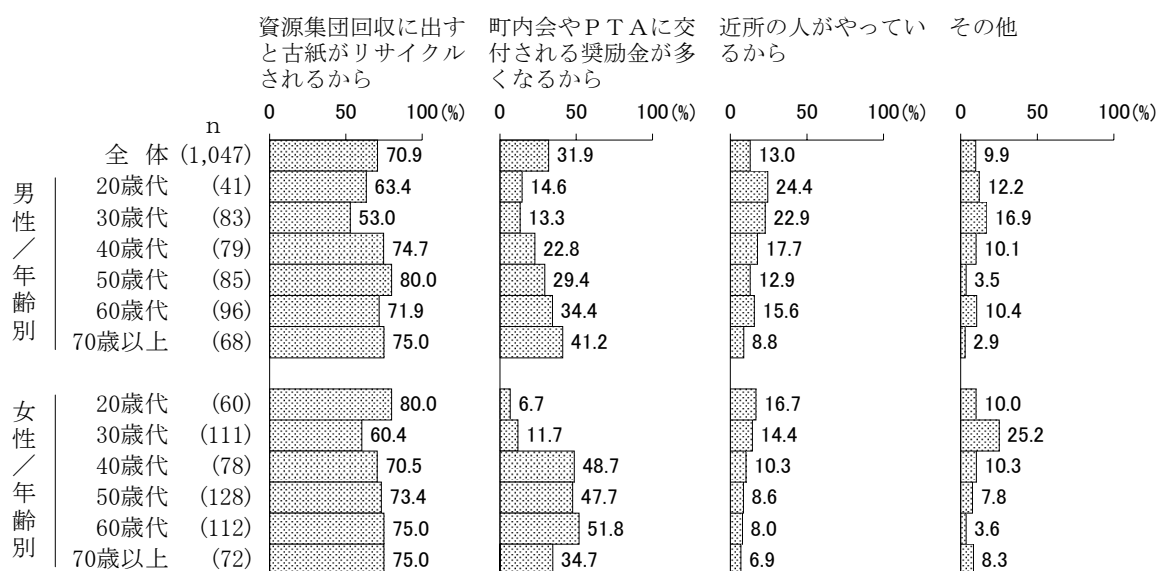
問19- (1) 資源集団回収に出している理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-12 資源集団回収に出している理由



資源集団回収に出している理由では、「資源集団回収に出すと古紙がリサイクルされるから」が70.9%で最も多く、以下、「町内会やPTAに交付される奨励金が多くなるから」(31.9%)、「近所の人がやっているから」(13.0%)が続いている。(図表3-12)

図表3-13 資源集団回収に出している理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「資源集団回収に出すと古紙がリサイクルされるから」は男女ともに多くなっているが、30歳代で他の年齢よりやや少なくなっている。「町内会やPTAに交付される奨励金が多くなるから」は男性では70歳以上で4割を超えているが、年齢が低くなるにつれて少なくなる傾向がみられ、女性では40歳代から60歳代で5割前後と多くなっている。(図表3-13)

居住区別では、前問の『資源集団回収の実施状況』において「資源回収に出している」割合がすべての資源で最も多かった幸区をみると、「資源集団回収に出すと古紙がリサイクルされるから」が6割台、「町内会やPTAに交付される奨励金が多くなるから」が3割台半ばとなっている。

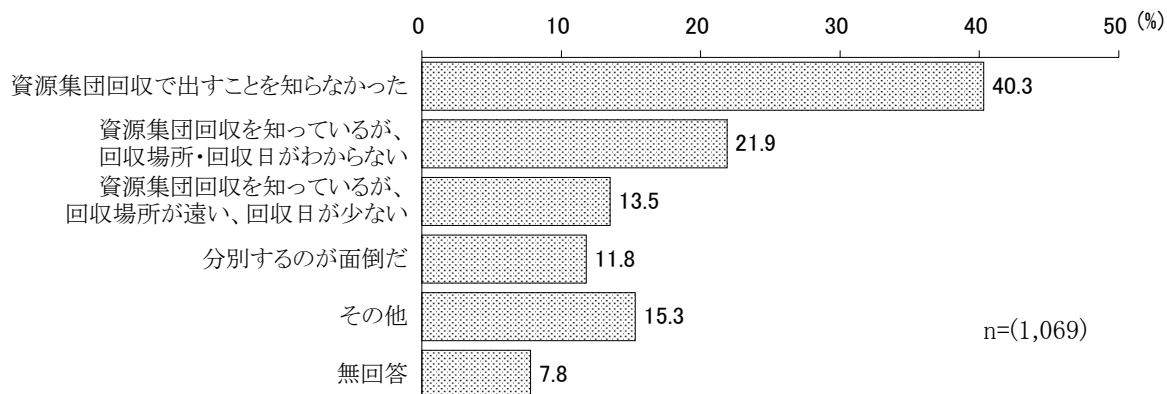
3-8 資源集団回収を利用しない理由

◎ 「資源集団回収で出すことを知らなかった」が40.3%

(問19の「新聞」、「雑誌」、「ダンボール」、「牛乳パック」、「古布」のうち、1つでも「普通ごみに出している」と答えた方にうかがいます。)

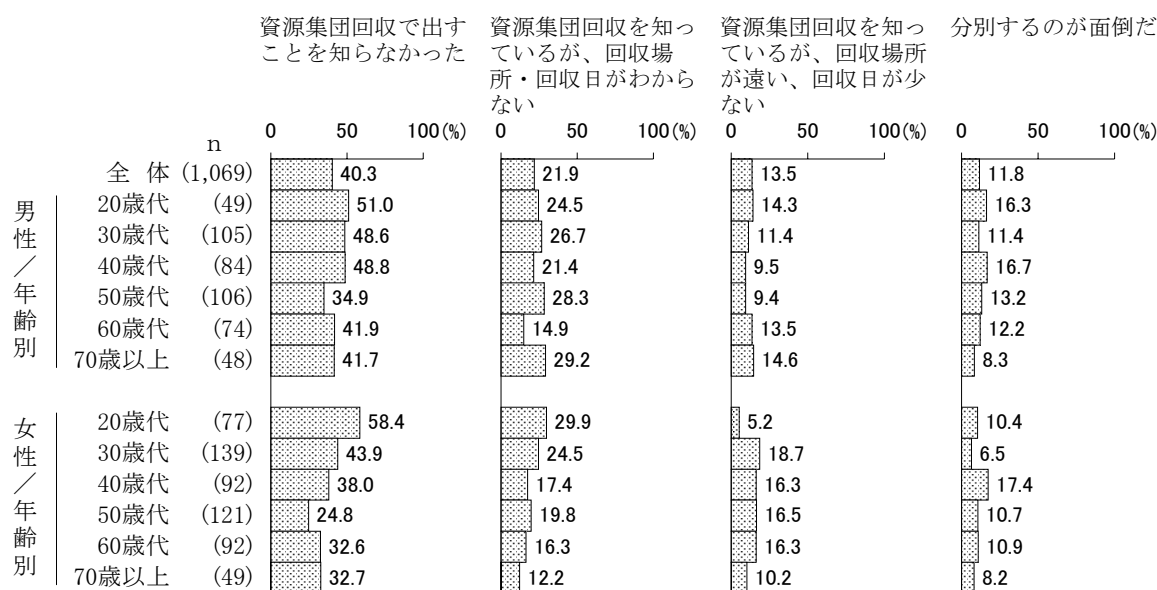
問19-(2) 資源集団回収を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-14 資源集団回収を利用しない理由



資源集団回収を利用しない理由では、「資源集団回収で出すことを知らなかった」が40.3%で最も多く、以下、「資源集団回収を知っているが、回収場所・回収日がわからない」(21.9%)、「資源集団回収を知っているが、回収場所が遠い、回収日が少ない」(13.5%)、「分別するのが面倒だ」(11.8%)と続いている。また、「その他」の具体的な内容は、古布は資源集団回収していない、資源集団回収の対象になっていない(57件)、回収するほど量がない(51件)、別の方法で処分(再利用)している(18件)などとなっている。(図表3-14)

図表3-15 資源集団回収に出している理由(性/年齢別)



「資源集団回収で出すことを知らなかった」は男女とも多くあげられているが、50歳代で他の年齢より少なくなっている。また男性の70歳以上、女性の30歳代では、「資源集団回収を知っているが、回収場所・回収日がわからない」、「資源集団回収を知っているが、回収場所が遠い、回収日が少ない」の両方が多くあげられている。(図表3-15)

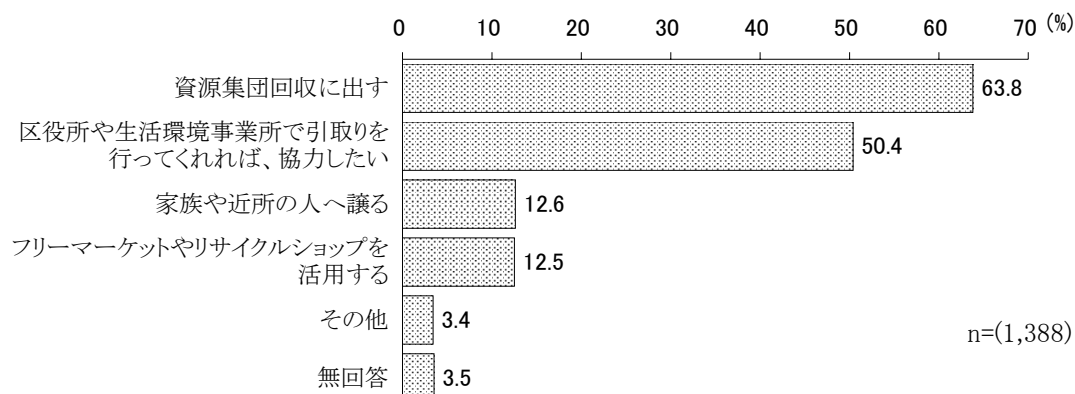
3-9 古布のリサイクルを推進するために協力できること

◎ 「資源集団回収に出す」が63.8%、「区役所や生活環境事業所で引取りを行ってくれば、協力したい」が50.4%

問20 資源集団回収の対象品目である古布は、東南アジアへ輸出されたり、ウエス（ぞうきん等）として活用されたりするなどリサイクルされます。

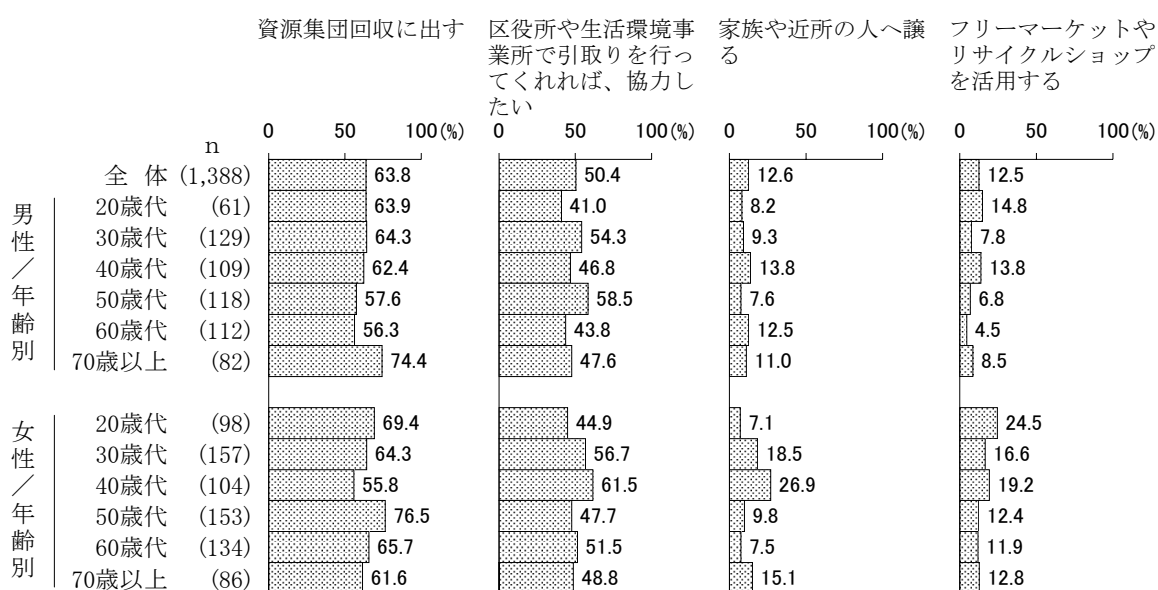
あなたは、古布のリサイクルを推進するために、どういったことに協力していきたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表3-16 古布のリサイクルを推進するために協力できること



古布のリサイクルを推進するために協力できることを聞いたところ、「資源集団回収に出す」が63.8%、「区役所や生活環境事業所で引取りを行ってくれば、協力したい」が50.4%でこの2項目が突出して多くなっている。（図表3-16）

図表3-17 古布のリサイクルを推進するために協力できること（性／年齢別）



性／年齢別では、「資源集団回収に出す」は男女ともに多くあげられているが、男性の70歳以上、女性の50歳代で7割台と特に多くなっている。また、「家族や近所の人への譲る」は女性の40歳代で、「フリーマーケットやリサイクルショップを活用する」は女性の20歳代で2割台半ばと他の年齢より多くあげられている。（図表3-17）

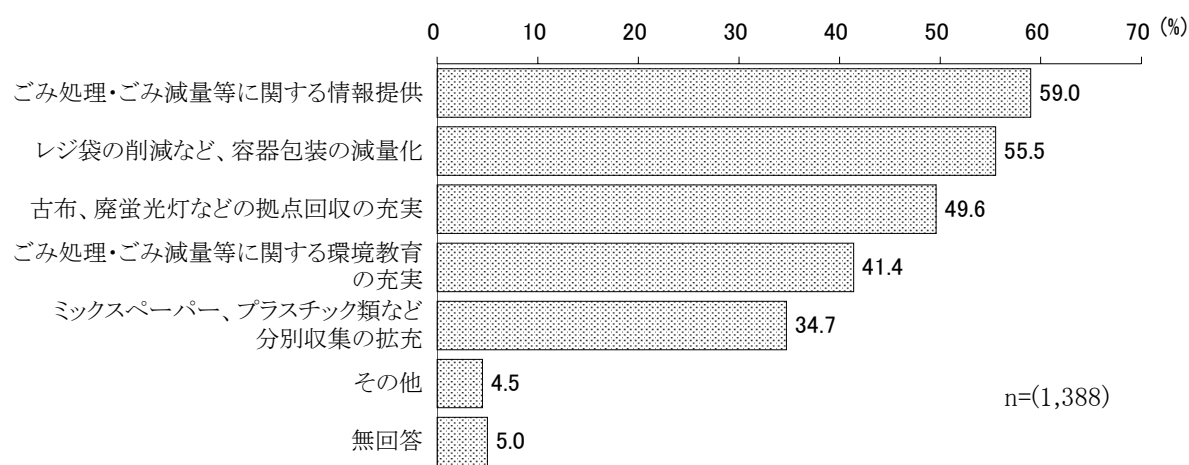
3-10 3Rの施策を推進するための取組み

◎ 「ごみ処理・ごみ減量等に関する情報提供」が59.0%、「レジ袋の削減など、容器包装の減量化」が55.5%

問 21 川崎市では地球環境にやさしい循環型のまちを目指して、ごみの発生・排出抑制（Reduce・リデュース）、再使用（Reuse・リユース）、再生利用（Recycle・リサイクル）という、いわゆる3Rの施策を推進しています。

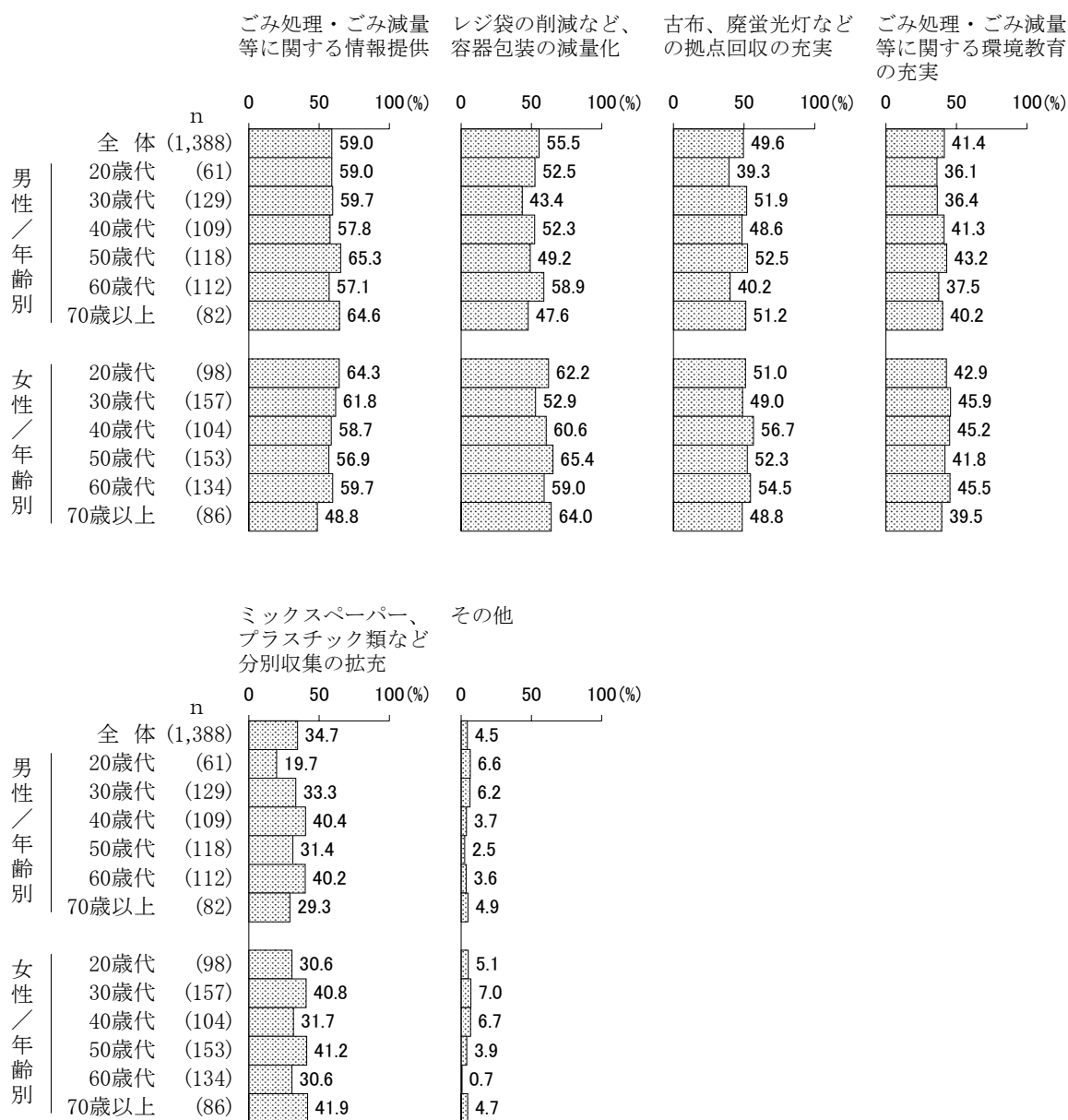
あなたは、今後の3Rの施策を推進のために、どのような取組みが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 3-18 3Rの施策を推進するための取組み



3Rの施策を推進するために重要な取組みでは、「ごみ処理・ごみ減量等に関する情報提供」が59.0%で最も多く、以下「レジ袋の削減など、容器包装の減量化」(55.5%)、「古布、廃蛍光灯などの拠点回収の充実」(49.6%)、「ごみ処理・ごみ減量等に関する環境教育の充実」(41.4%)、「ミックスペーパー、プラスチック類など分別収集の拡充」(34.7%)と続いている。(図表3-18)

図表3-19 3Rの施策を推進するための取組み



性／年齢別では、「レジ袋の削減など、容器包装の減量化」は全体的に女性の割合が多くなっており、5割から6割台となっている。「ミックスペーパー、プラスチック類など分別収集の拡充」は男性の40歳代、60歳代、女性の30歳代、50歳代、70歳以上で4割台と比較的多くなっている。(図表3-19)